

小竹町総合戦略の基本理念と基本的な考え方

【総合戦略の基本理念】
「小さくても”キラリ”と光るまち こたけ」

基本的な考え方①～③を踏まえて、
基本理念の達成を目指す

【総合戦略の基本的な考え方①】

◆**転入の促進**◆
移り住みたくなる「魅力あふれる
”器(うつわ)”づくり」

<ターゲット>

町外からの小竹町への転入者
<取組みイメージ>
①情報を取得できる拠点の整備
②就業環境の整備
③住環境の整備



【総合戦略の基本的な考え方②】

◆**転出の抑制**◆
人とつながり、地域間の連携を図る
「”つながり”のあるまちづくり」

<ターゲット>

町内居住の20～30代の若者世代
<取組みイメージ>
①若者への出産・子育て支援
②きめ細やかな教育環境の整備
③多世代が交流するコミュニティづくり
④町外移住者等が参加する地域づくり



基本的な考え方①、②を実現する
ためには③が必要

【総合戦略の基本的な考え方③】

◆**こたけを担う人づくり**◆
町の情報をまとめ多くの人に周知する
「”情報プラットフォーム”づくり」

<ターゲット>

小竹町の町民一人ひとり
<取組みイメージ>
①町の魅力を発信するプレーヤーの育成
②町の魅力を発信できる取組みの推進
③情報媒体(情報誌・HP等)の整備



総合戦略の推進

総合戦略の実効性を高めるとともに、施策の効果を客観的に検証できるようにするため、政策分野ごとに数値目標を設定し、また施策ごとに重要業績評価指標(KPI)を設定しました。

総合戦略の効果検証に際しては、毎年度、数値目標及びKPIの達成度を点検評価するなど、総合戦略に記載された施策が適切に実行されるようPDCAサイクルを確立し、進行管理を行うこととします。

- 総合戦略の策定
- 改善策に基づき、総合戦略の更新

Plan (計画の策定、更新)

P

- 総合戦略で位置づけた施策、事業の実施

D

Do (計画の実施)

Action (改善策の検討)

A

- 設定した目標、KPIの客観的な検証を踏まえて総合戦略の見直し案の検討を行います

Check (結果の検証)

C

- 設定した目標、KPIの客観的な検証

小竹町人口ビジョン及び総合戦略(第2期)【概要版】



「小さくても”キラリ”と光るまち こたけ」

令和2年3月 小竹町

小竹町人口ビジョン・総合戦略(第2期)とは

小竹町人口ビジョンは、本町における人口問題の現状を分析し、人口に関する住民と共通認識を図り、必要な時点更新等を加えつつ目指すべき将来の展望(目標人口)を提示するものです。また、総合戦略(第2期)は、本町の人口の現状や将来見通しを踏まえ、第1期総合戦略の枠組みを引き続き維持し、地方創生のより一層の充実強化に取り組むため、令和6年度までに戦略的に実施していく施策についてまとめています。

◆人口ビジョン◆

- 本町における人口問題の現状を分析し、人口の将来展望(ビジョン)を示します
- 令和22年(2040年)を中期、令和42年(2060年)を長期の目標とします

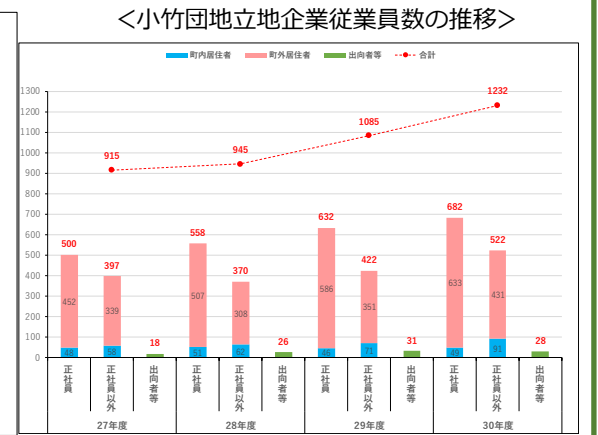
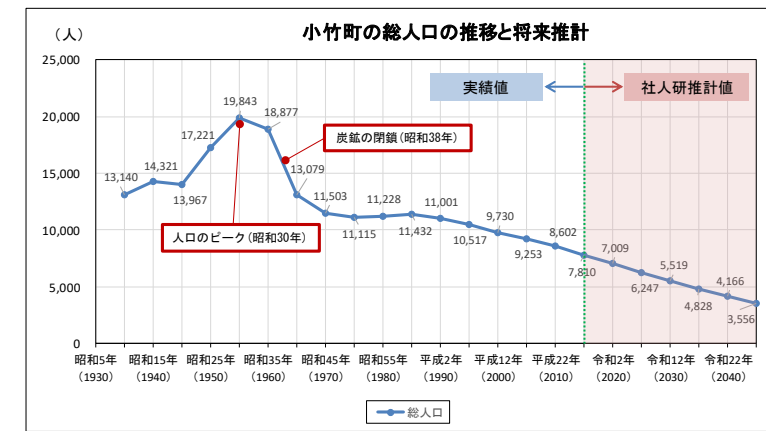
◆総合戦略(第2期)◆

- 人口ビジョンを指針として本町が実施する人口減少問題に対する取組の内容を示します
- 令和2年度(2020年)から令和6年度(2024年)までの5か年を計画期間とします

小竹町の人口の現状

本町では、若年層、特に就活期の世代の転出が年々増加の傾向にあります。人口構成としては、平成7年(1995年)以降、老年人口(65歳以上)が年少人口(0～14歳)を上回ってきており、令和17年(2035年)には老年人口が生産年齢人口(15～64歳)の比率を上回ると推計されています。また小竹団地を中心に企業誘致が進んでいますが、多くの従業員の方が町外在住であるという本町独自の現状がみられます。

- **【今後も人口が減少】**：小竹町の総人口は昭和30年以降人口は減少を続け令和22年(2040)には約4,166人にまで減少すると推計されています。平成27(2015)年の7,810人と比較すると、3,644人(46.7%)の減少となります。
- **【就活期の世代の転出】**：20～30代の若年層の転出超過が顕著です。特に「20～24歳」の転出が男女とも最も多く、加えて男性の転出が女性より多くなっています。
- **【老年人口が生産年齢人口を上回る】**：生産年齢人口(15～64歳)は減少傾向、老年人口(65歳以上)は増加傾向にあり、その人口比率は令和17年(2035年)には、逆転し、老年人口1人を生産年齢人口0.86人で支える状況となることが予想されます。
- **【従業員の約9割が町外から通勤】**：「小竹団地」の従業員数は平成30(2017)年度には1,232人と大きく増加しています。従業員数の9割が町外居住者という状況です。



◆人口ビジョン

『中期目標(R22) : 約 5,000 人、長期目標(R42) : 約 4,000 人』を維持

<小竹町の将来人口の推移 (H27(2015)年~R42(2060)年) >

人口減少問題の克服

<現状>

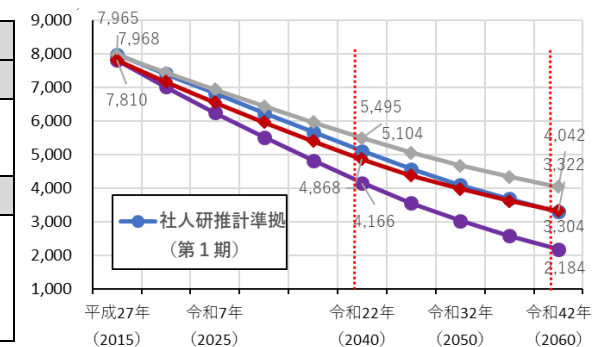
- ・ 福岡県平均を上回る高齢化率となっている
- ・ 周辺市町村への若者層の転出超過(高校、大学進学の際の転出が多い状況)となっている
- ・ 小竹団地を核とした企業誘致を積極的に展開しているが、町内居住者が少ない

<小竹町の将来人口の比較 (H27(2015)年~R42(2060)年) >

	現状のまま推移 (社人研推計)		戦略を実施した場合の推移 (町独自推計)	
H27(2015)年【基準】	7,810 人	-	7,810 人	-
R22(2040)年【中期】	4,166 人	H27 比 46.7%減少	4,868 人	H27 比 37.7%減少
R42(2060)年【長期】	2,184 人	H27 比 72.0%減少	3,322 人	H27 比 57.5%減少

設定条件

- 合計特殊出生率の設定
2030 年に出生率 1.8、2040 年に 2.07 人を実現
- 社会移動率の設定
2030 年に若年層(高卒・大学卒業時である 15~19 歳、20~24 歳)の転出入数を 0 と設定



◆総合戦略

基本理念 「小さくても”キラリ”と光るまち こたけ」

基本的な考え方

<基本的な考え方①>

「魅力あふれる”器(うつわ)”づくり」【転入の促進】

- ・ ソフト、ハード両側面からの住環境の整備
- ・ 町の地域資源を活かした魅力づくり

<基本的な考え方②>

「”つながり”のあるまちづくり」【転出の抑制】

- ・ 地域、世代間を超えたコミュニティづくり
- ・ 子育て支援制度の仕組みづくり、教育環境の整備

<基本的な考え方③>

「”情報プラットフォーム”づくり」【こたけを担う人づくり】

- ・ 地域のよさや地域情報の発信者となる人づくり
- ・ 情報媒体(情報誌、ホームページ等)の整備

基本目標と基本的方向

安定した雇用を創出し、安心して働ける「まち」をつくる

- ・ 若者から高齢者までが生き生きと活躍できる雇用と、魅力ある「しごと」づくりを目指す
- ・ 地域資源を活用した新たなビジネスの起業や創業を支援し、ふるさと名物を産出する
- ・ 交流拠点をつくり、小竹駅西口周辺を中心とした賑わいを創出する

住み続けたい、移り住みたい「まち」をつくる

- ・ 多様な形で本町と関わる者との継続的なつながりを持つ機会を増やす
- ・ 魅力的な住環境の整備等を推進し、移住定住を促進する
- ・ 郷土愛を育み、将来にわたって小竹町からの転出を抑制する

子育て世代に選ばれる「まち」をつくる

- ・ 安心して結婚、出産、子育てができる切れ目のない環境づくりを推進する
- ・ 魅力ある質の高い教育環境を維持し、「教育のまちこたけ」を積極的に発信する
- ・ 地域で子どもを育て見守り、若い世代の転出抑制と転入促進に繋げる

安全・安心・快適で住みやすい、自慢したくなる「まち」をつくる

- ・ 町民が健康で自分らしく、生涯現役で活躍できる環境づくりに取り組む
- ・ 地域住民が主体となり、積極的な地域協働によるまちづくりを推進し「地域力」の向上を図る
- ・ 町のイメージアップを図り「自慢したくなるまち」「住みたくなるまち」を目指す

主な施策(解決策)

- ・ 産業団地の就業人数に占める町内居住者の割合の向上
- ・ 地域を活性化させるため本町における起業や第二創業を支援
- ・ 小竹駅周辺を中心とする商業施設整備を推進
- ・ 農業の担い手確保・育成と経営支援
- ・ ふるさと名物の開発販売支援とふるさと納税への活用
- ・ 女性や高齢者、障害者の就労支援を推進

- ・ 関係人口の創出
- ・ 移住定住の促進
- ・ 「住みたくなるまち」へのイメージアップと情報発信の強化
- ・ 移住促進のための住宅支援
- ・ 民間活力を活用した定住促進住宅の整備
- ・ 空き家を活用した定住促進事業の推進
- ・ 若い世代に対する町内の「しごと」紹介

- ・ 出会いから家庭づくり支援事業の推進
- ・ 子どもが健やかに育つための切れ目のない保健対策を推進
- ・ 仕事と家庭の両立支援のための預かりサービスを充実
- ・ 地域子育て支援サービスの充実
- ・ 子育て世帯の経済的負担の軽減
- ・ こたけ「つながる」学びのプロジェクトの実践

- ・ 小竹駅西口周辺の拠点整備(コンパクトシティ)
- ・ 町民の健康意識の高揚
- ・ 町民主体の地域づくり活動を推進
- ・ 災害対応力の強化
- ・ 環境美化、ボランティア清掃の推進
- ・ 北九州都市圏や直轄圏域による広域連携事業の推進
- ・ 観光まちづくりの実践

成果目標

- ・ 小竹団地就業者の町内在住者の割合 : 20% (R6年)
- ・ 観光入込客数 : 100,000 人 (R6年)

- ・ 「住み続けたい」「どちらかといえば住み続けたい」と思う人の割合 : 70%以上 (R6年)
- ・ 転出超過 : 10%抑制 (R2~R6年)

- ・ 年少(0~14歳)人口数 : 640 人 (R6年)
- ・ 子育て環境・支援に対する満足度 : (小学生未満・小学生保護者) : 10%向上 (R6年)

- ・ 「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」と思う人の割合 : 60%以上 (R6年)
- ・ 小竹駅西口周辺宅地分譲地(戸建)移住者数 : 30人以上 (R6年)